

- 効率的な営農を行うため、ほ場の区画整理を行うとともに、用排水の更新等の基盤整備を実施。
- 基盤整備をきっかけに集落営農組織を設立し、水稻、小麦、大豆のブロックローテーションを実施。
- 更なる営農の効率化と規模拡大に向け、スマート農業を活用した省力化の取組。

地区の特徴

平地地域

水稻

キーワード

高収益作物

6次産業化

集積・集約化

法人化

取組前

地域の概要

- 千葉県北部に位置する神崎町、利根川洪積平野の平坦な耕地



国営土地改良事業の実施

- 昭和18～40年に実施された国営土地改良事業により排水施設の整備

しかし、年数の経過と周辺の宅地開発等により…

排水機能の低下

- 施設の老朽化による排水機能の低下

小区画、排水不良なほ場

- 20～30a/区画の小区画ほ場
- 低湿地、排水不良のため、大型機械の導入や、水稻以外の作付が困難

取組内容

大区画化及び用排水の更新・整備

- 国営両総事業（H5～26）による
 - ・ 基幹的な排水施設の更新
- 県営ほ場整備事業（H4～11、神崎東部地区）による
 - ・ ほ場の大区画化
 - ・ 用水のパイプライン化
 - ・ 排水対策の強化

集落営農組織の設立

大型機械を導入し、ブロックローテーションで水稻、小麦、大豆を栽培

農地・水路の保全

多面的機能支払交付金4組織による地域の共同活動※旧農地・水保安全管理支払交付金

集積した周辺地区で暗渠排水の整備

農地耕作条件改善事業（H29～30、神崎東部地区）

スマート農業導入に向けた検証

スマート農業実証プロジェクト（R1～）により、更なる営農の効率化に向けたスマート農業技術の検証

取組後

集落営農組織による大規模水田経営の実施

農事組合法人 こうざき とうぶ 神崎東部

- 【営農規模】86ha（令和2年度）
- 【作付品目】水稻60ha、小麦+大豆26ha
- 【構成員】社員6名、臨時雇用4名

- ・ 汎用化された1ha超の大区画ほ場において、小麦、大豆を取り入れたブロックローテーションを実施

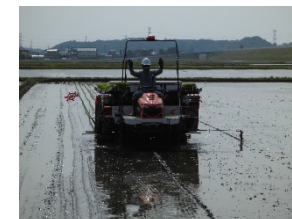


施工前全景(H4)



施工後全景(H11)

- ・ 大型農業機械の導入による営農の効率化
これにより、少人数で大規模な農業が展開可能
- ・ 更なる営農の効率化・大規模化を見据えて、スマート農業の実証事業を実施中



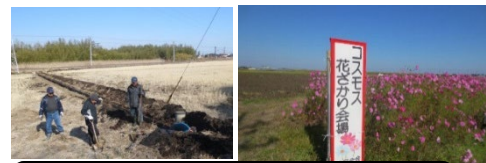
GPS連動直線キープ田植機の実証実験

◆ 誰がどのように・・・？

元々、狭小で非効率な湿田であったため、地元の主な農家が中心となって話し合いを行い、基盤整備による営農の効率化、水稻以外の品目への転換を推進

◆ 誰がどのように・・・？

基盤整備をきっかけに、地元の主な農家が中心となって、2年間、話し合いを続けた結果、集落営農組織を設立し、大型機械による効率的な営農、汎用化による他品目の導入が可能



多面的機能支払交付金の活動

きっかけ

用水施設の老朽化

小区画・排水不良なほ場

Step1 (H4~26)

基盤整備の実施 (ほ場整備等)

○ 県営ほ場整備事業 (H4~11) により、区画整理 (81ha) や用水のパイプライン化、排水路の整備などを実施

○ 浚渫土の客土により、水稻だけでなく、大豆・麦などの栽培が可能

基盤整備の実施 (基幹的施設の更新)

○ 国営両総事業 (H5~26) により、基幹的排水施設を更新

Step2 (H12~)

集落営農組織の設立

○ 基盤整備をきっかけに、5名の担い手で営農組合を設立。その後、平成24年に法人化 (農事組合法人神崎東部)

○ 大区画化した水田で、大型機械を導入。また、基盤整備に伴う汎用化により、麦・大豆の作付が可能になり、水稻、小麦、大豆のブロックローテーションを開始

農業者数の減少から、農村環境の保全管理課題が生じたため、地域のリーダーが中心となって話し合いを行い、多面的機能支払の活動組織を設立。

★更なる営農の効率化・大規模化に向けて

担い手不足により受託面積が増加する中、100ha超の大規模水田経営の実現には労力の軽減、収量・品質の向上が必要であるため、スマート農業を実証中

田植作業の労力削減のため、一部のほ場で湛水直播栽培を導入



Step3 (H24~)

農地や水路の保全活動

○ 多面的機能支払交付金による共同活動を開始

○ 令和2年度現在で4組織が活動しており、農事組合法人神崎東部も構成員として、遊休農地解消のための草刈りや、水路・農道の補修等を実施

将来に向けて

- ☑ ほ場の集約・大区画化や、耕作条件の改善等により、スマート農業技術の利用に適したほ場条件の整備。
- ☑ スマート農業技術を活用した水田経営を確立し、営農を担うことで、地域の生産基盤を維持。

今後の展望

Step5 (R元~)

スマート農業技術の検証

○ スマート農業実証プロジェクトにより、大規模水田経営に必要な機械・装置一式を導入し、コスト低減効果等を検証中

町を実証代表、県 (農業事務所) を進行管理役とし、JAや農機メーカー、農研機構等と連携しながら検証

Step4 (H29~30)

暗渠排水の整備と農地の集積

○ 営農規模の拡大を図るため、農地耕作条件改善事業 (神崎東部地区) により、県営ほ場整備事業実施地区周辺の約3haのほ場において、暗渠排水を整備

○ 農地中間管理機構を活用して、地域の農地約69haを集積